

## 6-8 東海地方におけるラドン観測 (XXII) Radon Observation in the Tokai district (XXII)

東京大学大学院理学系研究科  
Graduate School of Science, University of Tokyo

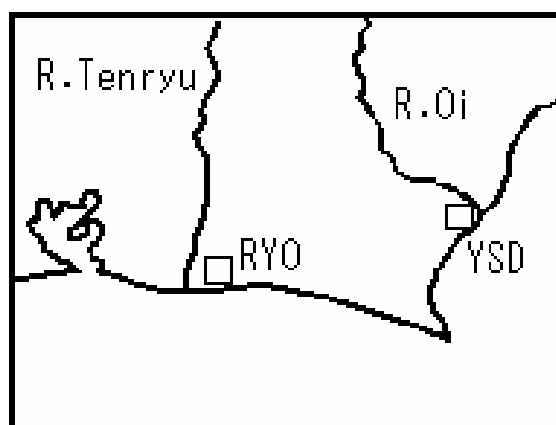
前報<sup>1)</sup>に引き続き、東海地方における地下水のラドン濃度の連続観測結果（2004年6月～2005年6月）を報告する。

観測点は第1図に示す竜洋（RYO）、吉田（YSD）の2地点である。第2図は、RYO、YSDにおける、1時間毎のラドン濃度（積算値）の24点移動平均値の時系列である。図の右上には、1998年以降のラドン濃度の観測値を示してある。OMZ、YSDでは現在観測を停止している。

RYO、YSDでは1週間程度の短周期の変動が卓越しているが、これは人工揚水の影響であると解釈される。YSDのラドン濃度は1999年までは大きく変動していたが、2000年以降は落ち着いた変動を示すようになった。

### 参 考 文 献

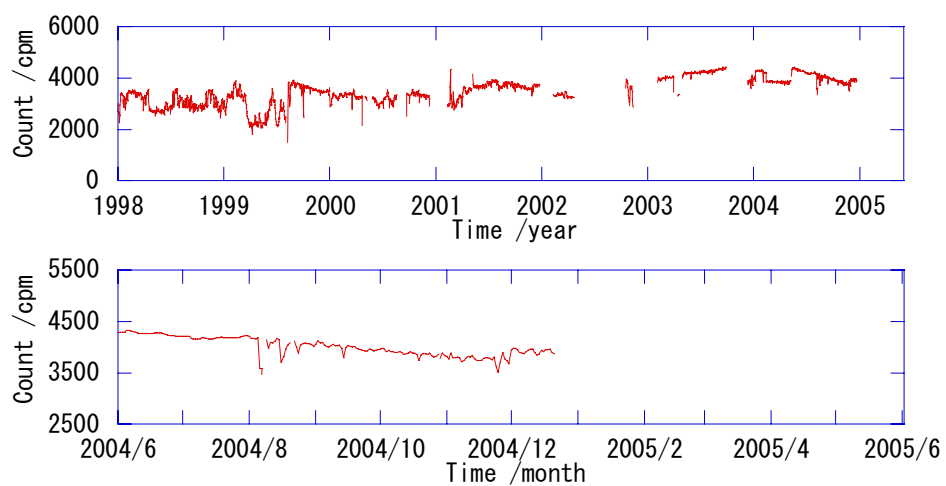
- 1) 東京大学大学院理学系研究科：東海地方におけるラドン観測 (XXI)、連絡会報、72 (2004)。



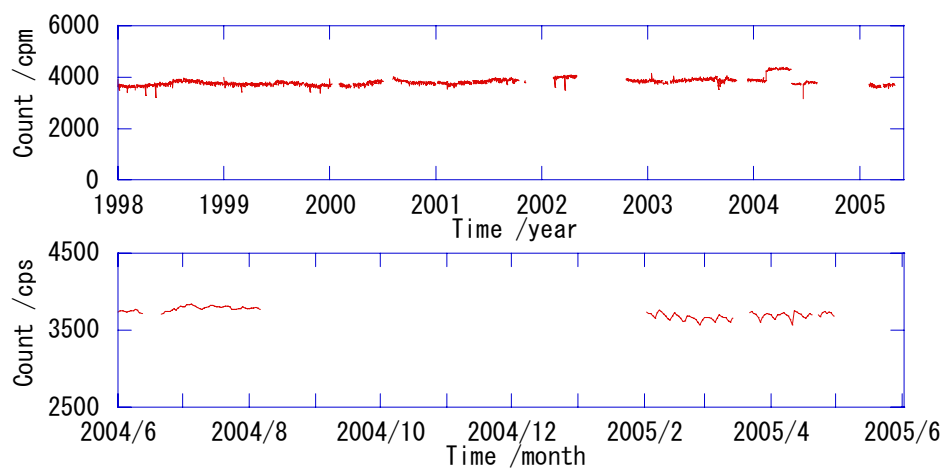
第1図 東海地方の地球化学観測点の位置

Fig.1 Locations of geochemical observation sites in the eastern part of Tokai district.

## YSD



## RYO



第2図 YSD、RYOにおける地下水のラドン濃度変化

Fig.2 Temporal variations in the radon concentration in groundwater at YSD, RYO. The data are 24-hour moving average value.